熊谷スマートシティ

Web共創・情報発信等実践方針（案）

○熊谷スマートシティにおける Web共創・情報発信の考え方

○双方向性システムによる「企画」と「実行」のループの加速

○コミュニティラボの取組み

○（参考）リアルの場での取組み

Web共創・情報発信に取り組む意義（案）

市民の満足度や都市の持続性に影響を与えるまちづくり・スマートシティ施策についてWebを通じて市民との意見交換を行いつつ政策を企画することには二つの面で意義があると考えられる。

（１）社会の状況や市民のニーズをより的確に踏まえることができ、施策がより実効性のあるものになる。
　また、その参画について、生活の場所・時間等に縛られないことで、多様な視点が確保されることが期待される。

（２）自らの意見が十分に聴かれ、社会の一部の実現に関わる経験は、自己肯定感を高め、生活の満足度（ウェルビーイングの一部）の向上につながることが想定される。
　また、特に若者などの社会の一員としての主体性を高め、地域社会への愛着を育むことなども期待される。

Web共創・情報発信に取り組むに際しての留意点（案）

〇デジタルデバイドによる情報の偏りへの留意
　Webで意見交換を行う場合、生活の場所・時間等に縛られないことで、多様な視点が確保されることが期待される一方で、デジタルデバイド（インターネットへのアクセスへの困難等）により、市民・関係者によっては正確な情報の取得が困難であったり、意見を表明しにくい可能性があることに留意する。
　その対策として、デジタルデバイドの解消に引き続き取り組むと共に、意見の集約等に際しては特定のWebコミュニケーションツールのみでなく、その目的にかなう複数の手法を併用を検討することなどが考えられる。

〇誤情報の拡散防止のための市役所公式情報の積極的な発信
　Web上での意見交換では、事実関係を誤解した情報等が検証されないまま用いられる場合がある。
　これを防止するため、公民連携まちづくりやスマートシティに関して、意見交換やワークショップを開催した際には、開催の事実や、検討・取組に支障のない資料等について極力速やかにWebに掲載することで、議論の起点として市役所の公開情報等を活用できる環境を確保することが望ましい。

〇匿名による安全性の確保と議論の有効性のバランス
　Web上での意見交換については、ペンネームの利用（匿名）を可能として、安全性の確保を可能とする必要がある。
　その一方で、匿名であることにより参加者が無責任な発言をしやすくなる場合に備え、Webコミュニケーション空間の運営については、複数の専門家・関係団体との協力関係の構築、実名での対策協議の場の確保などを行い、参加者の安全性を確保しつつ、議論が実際の試行あるいは政策の企画に結びつきやすい環境の維持に努めるべきである。

（更新版）Webコミュニケーションツール等の活用について（案）

R７年２月〇日
データ活用部会資料

【都市サービス】　**クマぶら**（FORESTIS）　**各種システム**

【Webコミュニケーション空間】

SNS等の誰でも自由に参入・発言が可能な場

市民同士・市民と市役所の間の情報共有・意見交換の場（登録制）

専門性等に基づく政策検討の場

市役所・関係団体等の内部検討の場

（仮）**まちLINE**
（LINEグループ）

（注）まちラインは民間団体による自主運営を検討

まちづくり

ツノルバ
（Dicidim）

WebGISPF
（Re：Earth）

クマポ活用

クマポプレイス
（Lincrew）

クラウドラボ（CL）
（Slack）
ペンネーム可

まちなか再生ビジョンｃｈ

市民参画型GISｃｈ

クマポ活用ｃｈ

CL運営チーム
（Slack）
実名のみ

（Slack）

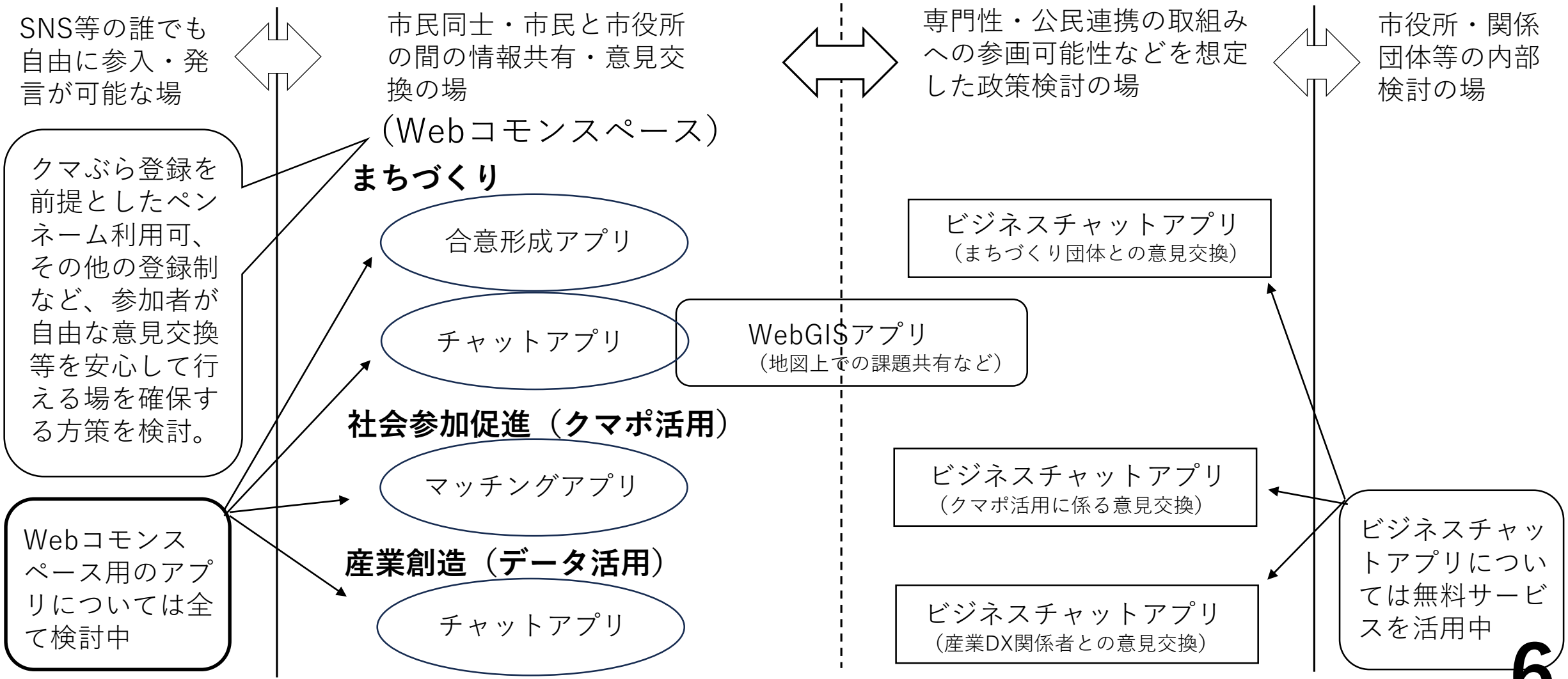
（Slack）

（Slack）

（参考・旧版）Webコミュニケーションツール等の活用（案）

R〇年〇月〇日
データ活用部会資料

まちづくり、社会参加促進（クマポ活用）、産業創造（データ活用）等の分野における、公民連携や民間主導の取組みを促進するためWeb上の情報共有・意見交換の場（Webコモンスペース）の設定を積極的に検討。



○熊谷スマートシティにおける
Web共創・情報発信の考え方

○双方向性システムによる「企画」と「実行」のループの加速

○コミュニティラボの取組み

○（参考）リアルの場での取組み

双方向性システムによる「企画」と「実行」のループの加速

【１】市役所Webサイト：特に注記がなくても市役所が記載内容に責任を持つ範囲

市役所トップページ

インデックスサイト（or サブサイト）

（※）熊谷市役所においては掲載情報の分類などを工夫したものをインデックスサイト、特にデザインしたものをサブサイトと呼ぶ。（サブサイトは予算要求が必要。）

（追加システム等があれば）追加システム等と本サイトの関係の解説（本シート相当）

新着情報（主に以下の情報の追加・更新等）

取組みの基礎となるビジョン・方針等

関連情報

（※）他部署の取組みについても極力リンクを張る。自部署の情報を自動的に優先するのではなく、市役所全体としての構想を市民に知ってもらうことを優先。

WS・シンポジウム等の募集情報や開催記録、報告書等

（アーカイブ部分）

【２】追加システム（SCとしての呼称は「Webコモンスペース」）：市民の意見交換を促す範囲

【職員による書き込みの取扱い（案）】
（１）市民の意見交換を促すために職員が記入する場合があるが、市役所のサイトに掲載されている内容（【１】）を越える内容は、「個人の意見であり市役所を代表するものではない」取扱いであることを承知の上でご参加いただく。
（２）職員は、政治的目的をもってする政治的行為等の法律上の違反、市役所内で保護すべきと既定されている予算等の情報に触れること、また追加システムへの参加上求められるマナー違反等（原則として規約等に明記されているもの）を行わないように留意して書き込みを行う。

書き込み内容は大まかに以下の２グループに区別される想定。
（民主導型はモデレーターの存在が重要となる見込み。）

【公民連携型】企画・振り返りフェイズ

ビジョン等に沿って市役所の予算・事務等の関与がなされている取組み（補助を受けて民間が実施している内容を含む）

アーカイブ部分を極力有効に活用。

中間領域（移行中等）

【民主導型】企画・振り返りフェイズ

ビジョン等に沿っている内容のうち、市役所の予算・事務等の関与がない取組み
（例）・花活
・ロボコン　等

公民連携型の実行フェイズ

民主導型の実行フェイズ

（参考）変化に強い「企画」と「実行」ループの考え方



「 PDCAサイクル」がPlan（計画）に基づいて1周することを前提とした考え方であるのに対し、下図の**「OODAループ」は**、必要に応じて途中で前の段階に戻ってループから再開できるなど自由度が高く**変化に対応しやすい**一方で、その**特性を生かすためには変化をとらえるための観察・分析などを常に怠らない姿勢が必要**とされる考え方です。
「星川将来ビジョン」の編集にあたり、対面に加えてデジタル手法を活用したコミュニケーションを促進し、またデータをまちづくりに活かして、社会の変化に応じたまちづくりを実践していく上では、OODAループの考え方が適するとの判断により、以下のとおり掲載したものです。



○熊谷スマートシティにおける
Web共創・情報発信の考え方

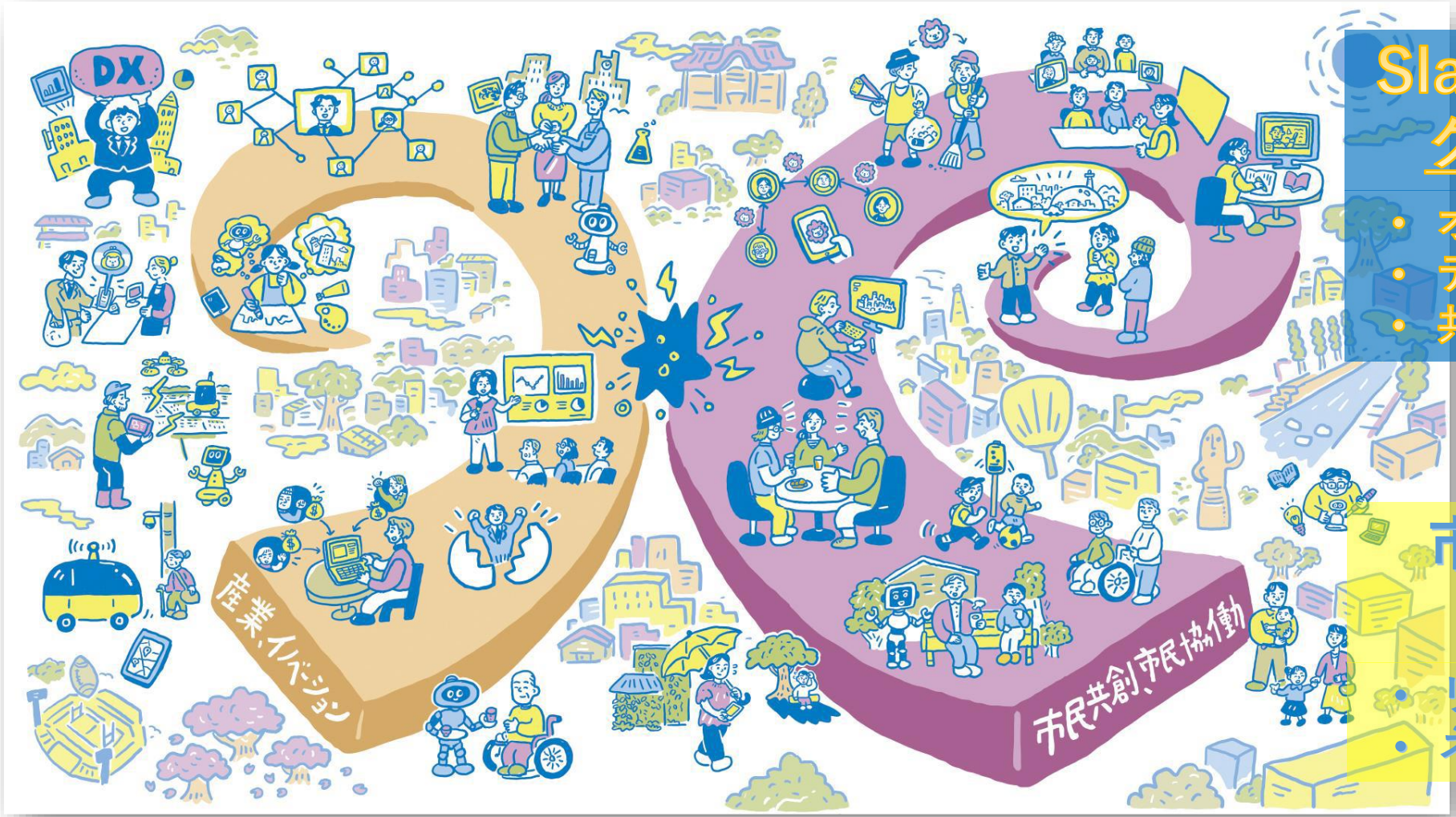
○双方向性システムによる「企画」
と「実行」のループの加速

○コミュニティラボの取組み

○（参考）リアルの場での取組み

【目指す方向性の共有（公開）】
「コミュニティラボ」を核とした産業振興・共創

民間団体と市役所の連携によりウェブ上とリアルの両面で運営



Slackを活用したクラウドラボ

- オープンな議論
- データ共有の場
- 共創の加速

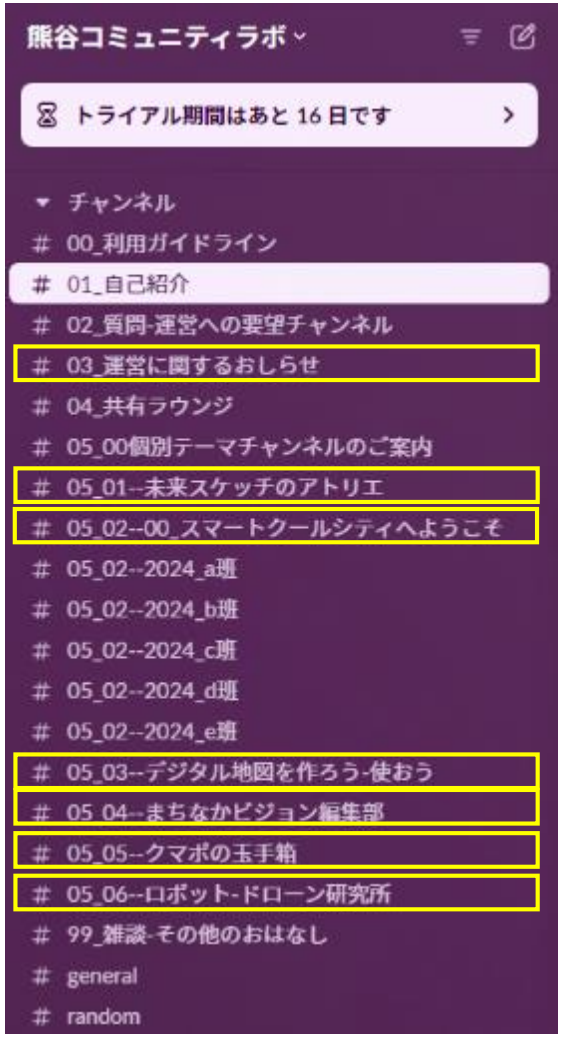
市内会場でのリアルラボ

- リアルな会合・体験
- ネットワークづくり

コミュニティラボ コンセプトビジュアル

（組織運営軸）クラウドラボ（Slack）の構造

（A階層）熊谷コミュニティラボ



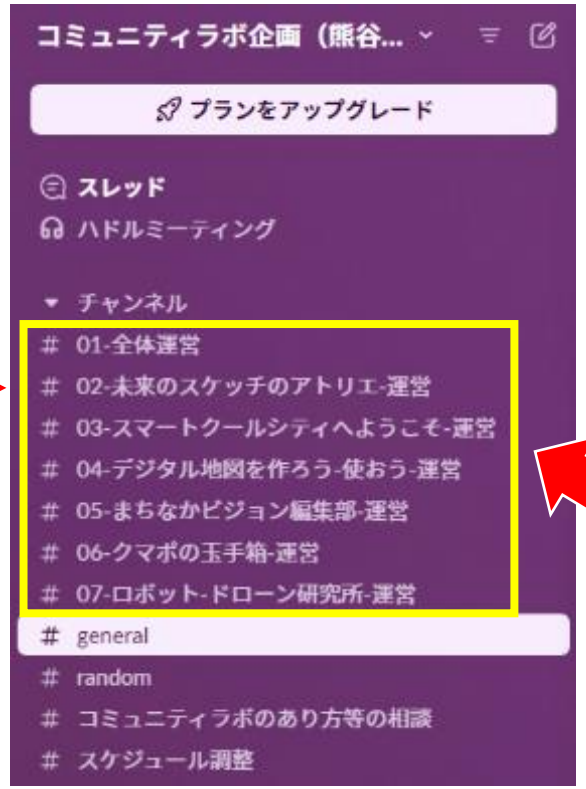
B階層とリンクするチャンネル

① 運営に関するお知らせ
② 未来スケッチのアトリエ
③ スマートクールシティへようこそ
④ デジタル地図を作ろう・使おう
⑤ まちなかビジョン編集部
⑥ クマポの玉手箱
⑦ ロボット・ドローン研究所

👆どなたでも入れる

（B階層）

コミュニティラボ企画（熊谷市）



👆関係者のみが入れる

関係者が各チャンネルに集合して、A階層の同じ名のチャンネル運営などについて話し合う

（C階層）個別ワークスペース

以下のチャンネルに加入している関係者皆様には、以下をお願いします。

A階層・B階層のワークスペースにそれぞれご参加いただく。
- A階層は匿名でOK
- B階層は実名・企業名あり



👆各ワークスペースごとに関係者が個別に話し合う

（参考）クラウドラボの各チャンネル主担当課（案）

まちづくりビジョン	商業観光課・都市計画課（まちなか・まちづくりPT）
クマポ・プレイス	市民活動推進課
ドローン・ロボット	企業活動支援課 （詳細は別紙「ドローン・ロボット・インフラ３D画像会議」参照）
シーンスケッチ	政策調査課
スマートクールシティ	環境政策課（暑さ対策）・政策調査課（システム・データ連携）
市民参画型GIS	政策調査課（WebGIS全般）・都市計画課（３D都市モデル）





クラウドラボへの市役所職員参加に係る留意点（案）

１．クラウドラボへの参加について

　熊谷スマートシティの一環として公民連携により運営される熊谷コミュニティラボのクラウドラボ（スラック）について、以下①②の目的のために業務上直接担当する以外のチャンネルの閲覧、質問等の書き込み、そのための登録を可能とする。

①　「熊谷スマートシティ宣言」、「熊谷市ＤＸ推進計画」に記載するスマートシティに関する取組み、その他の計画に定められた取組みを庁内連携・公民連携の下で、各システムやデータを有効に連携させつつ進める。

②　「熊谷市デジタル人材育成確保に関する基本方針」及び「熊谷スマートシティスキルカタログ」の実践に必要な知見を得る。

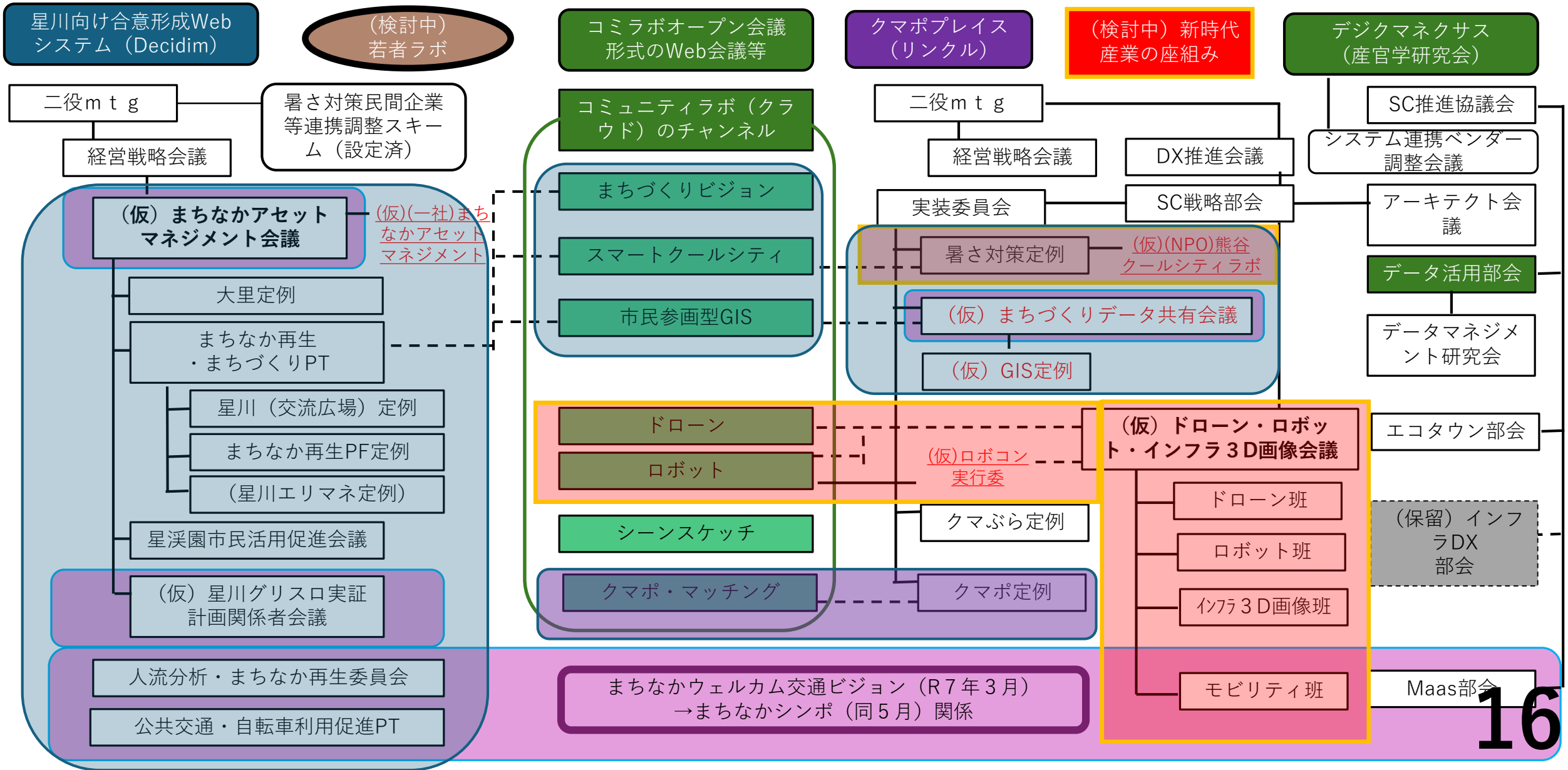
２．クラウドラボへの記入に係る情報管理・責任範囲について

（１）職員によるクラウドラボへの書き込みについては、個人情報、予算に係る情報、その他「熊谷市情報セキュリティポリシー」により適切な管理が求められる内容について必要な管理を行うものとする。
（２）職員が記入した情報は「市役所組織を代表するものではない」取扱いとする。（クラウドラボを始めとする各Webコモンスペース（注）の前提として各資料等において明示する。）
（３）クラウドラボ上の応答のみでは市役所組織としての公式の回答、意思表明とならないことを前提に、必要に応じて、市役所Webサイトへの資料等の公開、電子メールでの応答などの別の手段による対応を適切に行う。
（４）併せて、「熊谷コミュニティラボ利用ガイドライン」に留意し、他の参加者への敬意と誠意をもって対応する。
（５）なお、上記（４）に留意しつつ、（２）（３）の主旨に関して説明の上でも「クラウドラボ上では対応しかねる」ことに応じていただけない場合には、政策調査課に連絡のこと。（共同運営主体と対応を検討する。）

（注）「Webコモンスペース」は熊谷スマートシティ推進協議会データ活用部会において、熊谷スマートシティのシステム改善やデータ活用、その他公民連携のまちづくり等に市民等の参画を促すためのWeb上の意見交換の場として用いられた造語。

（参考）コミュニティ関係の取組と公民連携に関わる会議体等の関係（案）

（凡例） Web等により市民にオープンになる会議（予定）　交通ビジョン、R7年５月クロシンシンポ関係



○熊谷スマートシティにおける
Web共創・情報発信の考え方

○双方向性システムによる「企画」
と「実行」のループの加速

○コミュニティラボの取組み

○（参考）リアルの場での取組み

【オープンラウンジ形式の会議とは】

庁内での“閉じた”会議ではなく、庁外のフリースペース（KUMAGAYA PLACEなど）で会議を行うことで、内容を広く市民に公開するもの。

併せてZoomを利用したハイブリッド型の開催も効果的。

【オープンラウンジ形式で会議を行う目的】

熊谷市版のリビングラボである「コミュニティラボ」の公開をきっかけとして、職員は、仕事の仕方自体を根本的に変えていく観点（公開できる会議は原則として公開することで、市民とともに政策を進めていくなど）を持つ必要がある。

（主にKUMAGAYA PLACEでの）オープンラウンジ形式の会議のノウハウや課題を庁内で共有・更新していくことで、効率的・効果的な会議の実施につなげていく。

（参考）オープンラウンジ形式の会議開催記録

（凡例）【１】民間関係者ご講演中心の勉強会のオープン化型
【２】 公民連携に係る意見交換のオープン化型
【３】 市役所が主体となっての取組みの紹介型
【４】市役所主催の既存の公式会議のオープン化型

■開催履歴

１０月１日（火）　１５時半～　デジくまネクサス（第三回：クマぶら）【１】

１０月２２日（火）　１５時～　グリーンスローモビリティ勉強会①【３】

１１月７日（木）　１３時～　データ活用部会（スマートシティ推進協議会）【４】

１１月〇〇日（　）　〇〇時～　グリーンスローモビリティ勉強会②【３】

１１月２５日（月）　１５時～　クール×ウォーカブルシティ意見交換【２】

１２月３日（火）　１５時～　デジくまネクサス（第四回：コバトン健康マイレージ）【１】

２月６日（木）　１０時～　グリーンスローモビリティ勉強会③【３】

２月１４日（金）　１５時～　クマポ・クマポプレイス意見交換【３】

２月１７日（月）　１４時～　AI画像生成意見交換（シーンスケッチコンテスト関連）【１】

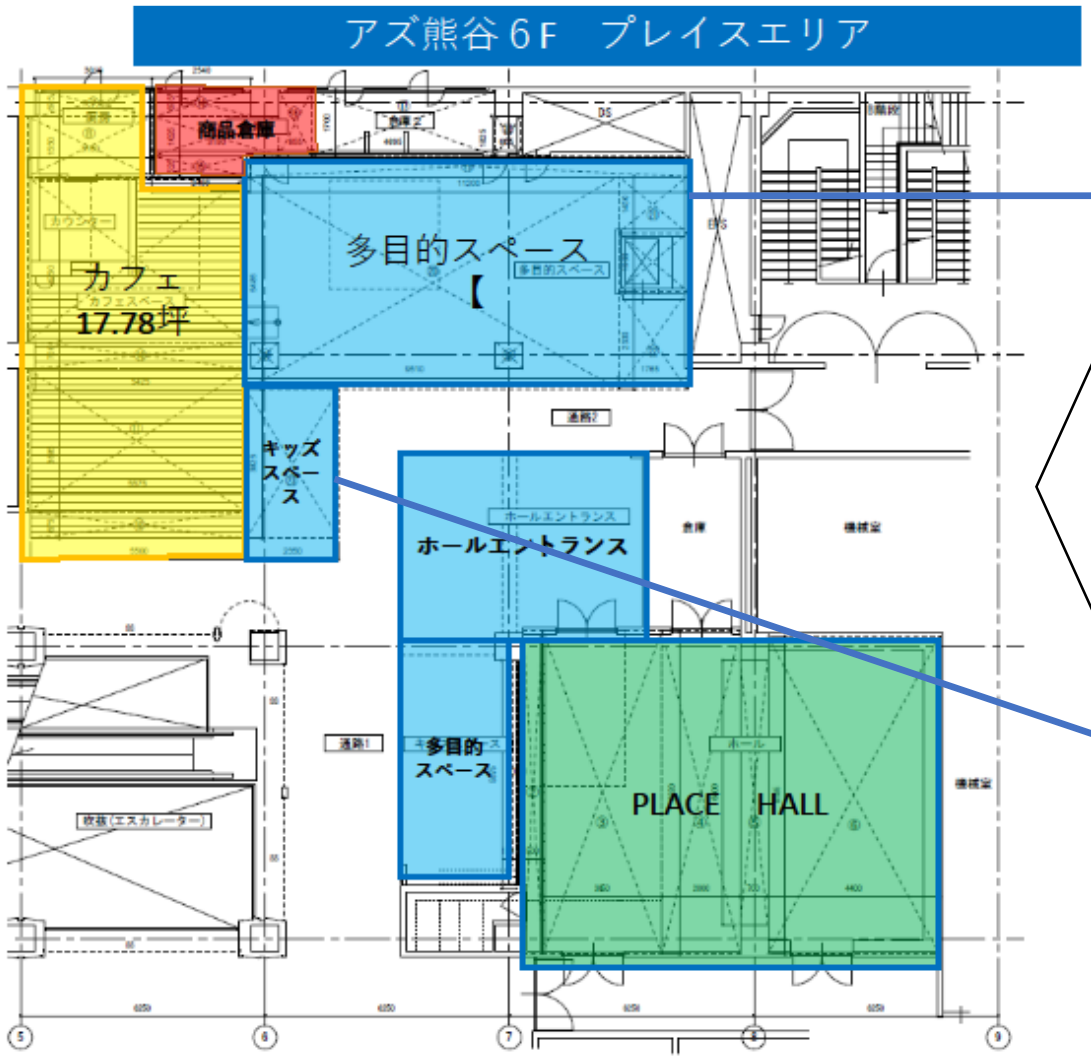
■検討中

月　　日（　）　　時～　データ活用部会（スマートシティ推進協議会）【４】

月　　日（　）　　時～　タブローカフェ・公開版【３】

（参考）熊谷プレイスにおける会場設営例

（全体配置図）



（※）１０月１日時点ではカフェ用スペースも利用可能

（設営図）

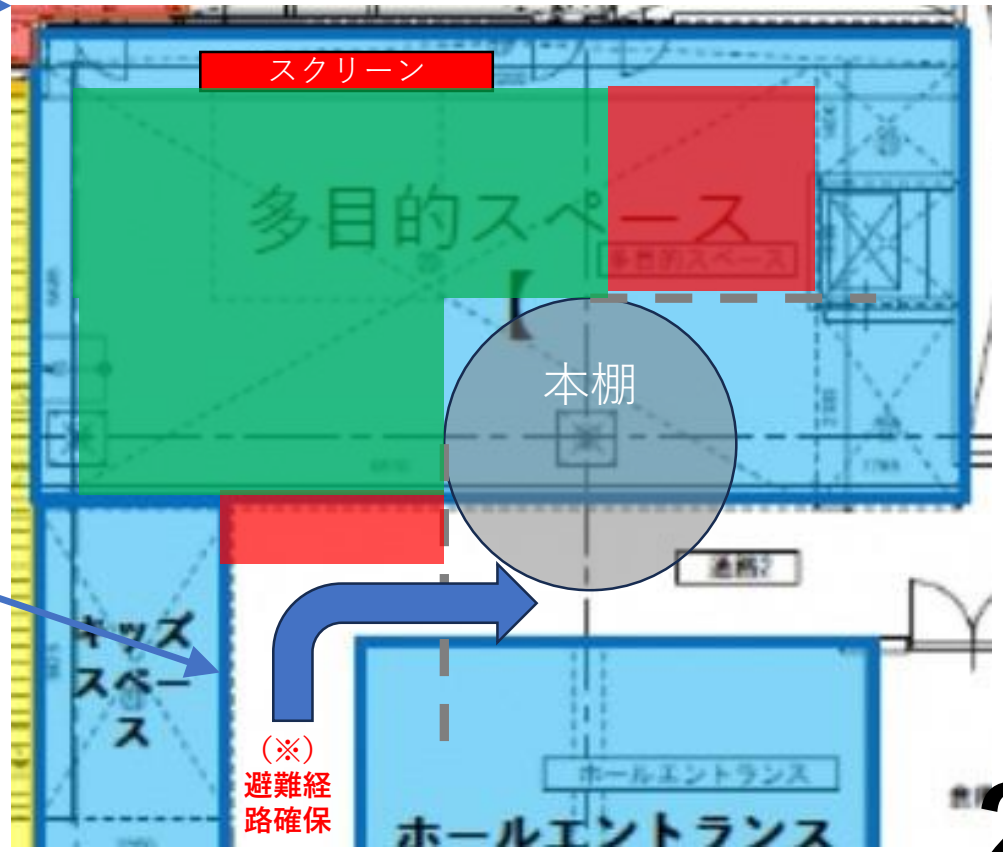
・凡例

メイン来客ゾーン

来客予備、事務方、講師待機、受付等ゾーン

イメージ図





（※）避難経路確保

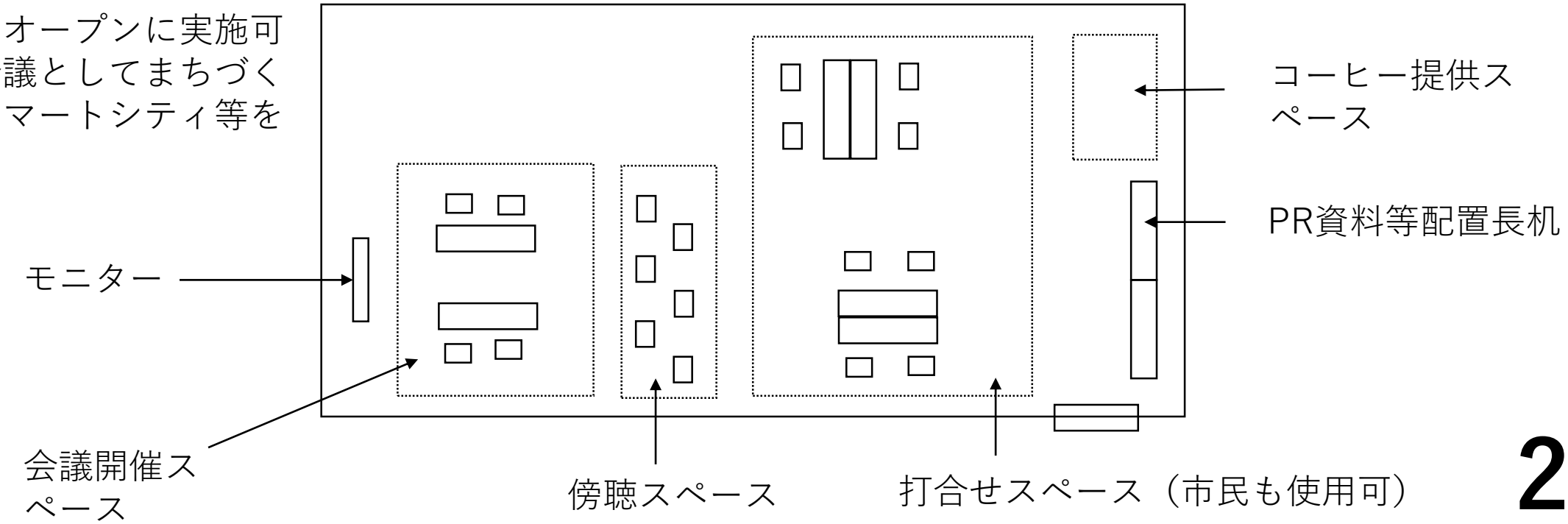
（参考）R4年度　市役所内オープンラウンジ実験

日時：令和４年１２月５日（月）１３：００～１７：００
　　１２月６日（火）１０：００～１７：００

会場：熊谷市役所本庁舎　６０３東会議室

共用の打合せ空間、ドリンク提供による市民協働・庁内部局間連携の円滑化等の効果を探る機会として、打合せラウンジを２日間限定で設定。
（コーヒーについては、地元カフェとコーヒー豆企業とのコラボによる無料コーヒー提供企画から提供。）

（※）オープンに実施可能な会議としてまちづくり、スマートシティ等を提供



デジくま×ツノルバ「まちづくりライブラリーワゴン」企画について　２４０１０１

スマートシティ・まちなか再生のこれからについて語る場（移動式を想定）をR7年10月オープン予定の拠点へ。



（イメージ）

（出典）編集工学研究所「ほんのれん」Webサイト　https://honnoren.jp/

【スマートシティ関連書籍】（イメージ）



【公民連携まちづくり関連書籍】（イメージ）



【市民共創対話カード】（第一版の一部）



クラウドラボ・シーンスケッチ・ツノルバ（Dicidim）等と連動し、**移動可能なまちづくりスポット**として機能



（２階以上）ロボくまロフト

２階以上の旧医院・住居を活用した、生活支援ロボット等の稼働を実証する空間



（１階）滞在交流拠点

１階は滞在交流拠点がオープン（画像はイメージ）



熊谷スマートシティにおける市民共創のための対話カード（第一版）一覧

（注）本カードに用いている画像に関する留意点
・コバトン健康マイレージの画像については、本カードへの使用について埼玉県庁への報告の上で了解を得て用いています。他の目的での使用については、埼玉県庁に直接お問い合わせください。
・その他の画像については、熊谷市役所が業務上作成した画像であり、上記③の目的に沿って印刷・紹介に用いる場合を除き、原則として流用を禁じます。その他の用途での利用については熊谷市役所市長公室政策調査課にお問い合わせください。
・なお、熊谷市役所が業務上作成した画像には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を用いて作成したものが含まれます。







熊谷スマートシティにおける市民共創のための対話カード（第一版）について

①本カードは、熊谷市の公民連携まちづくりの一環として、スマートシティ構築への市民参加を促進し、市民と行政が共同でデジタルの力を活用したまちづくりに取り組むためのツールとして準備されたものです。

②カードに記載の内容は、熊谷市のスマートシティにおける方針、実装済みあるいは実装予定のシステムやデータなどから成り立っています。（実装予定の内容は、令和６年度予算により実装に着手している内容、あるいは、今後数年のうちの着手を目指す内容として令和６年３月に「ウェルビーイングビジョンマップ」として公表した内容から成ります。）

③本カードは熊谷市におけるスマートシティに関係する意見交換やワークショップで用いることで、、市民や関係団体と市役所のスマートシティ担当者等の情報共有が円滑に行われることを目指して作成しています。そのため、記載内容については熊谷以外のスマートシティでは実装に向けた検討が行われていない熊谷独自の内容等も含まれます。

④本カードに用いている画像に関する留意点
・コバトン健康マイレージの画像については、本カードへの使用について埼玉県庁への報告の上で了解を得て用いています。他の目的での使用については、埼玉県庁に直接お問い合わせください。
・その他の画像については、熊谷市役所が業務上作成した画像であり、上記③の目的に沿って印刷・紹介に用いる場合を除き、原則として流用を禁じます。その他の用途での利用については熊谷市役所市長公室政策調査課にお問い合わせください。
・なお、熊谷市役所が業務上作成した画像には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を用いて作成したものが含まれます。